

自動車による移動支援をどう広げるか

(企画・協力：(特非) 全国移動サービスネットワーク)

提言

介護予防や健康寿命延伸のために
買物や居場所などに出かけることはとても大事。
助け合いの仕組み・登録不要の形態で、
生きがい・助け合いの移動支援の実践事例を
全国あちこちにジャンジャンつくろう！

登壇者

【進行役】	河崎 民子氏	(特非) 全国移動サービスネットワーク副理事長
	遠藤 準司氏	(特非) 全国移動サービスネットワーク理事
	三星 昭宏氏	近畿大学名誉教授
	梅田 寛章氏	不動ヶ丘高齢者等生活支援プロジェクトほっとらいふ代表
	窄口 真吾氏	(社福) 小野市社会福祉協議会地域福祉課
	川部 勝一氏	厚生労働省老健局振興課課長補佐

■ 寄せられた声から

- 通院支援を立ち上げ中なので大いに役立った。
- おのりんカー、ほっとらいふは素晴らしかった。川部さんの説明わかりやすかった。

■ 議事要旨 河崎 民子氏

分科会10の参加者は215人。高齢者等の移動支援への関心の高さがうかがえた。

遠藤準司氏は、国交省「高齢者の移動手段の確保に関する検討会」の中間とりまとめを受けて一部改正された通達「道路運送法における許可又は登録を要しない運送の態様について」をもとに、助け合いによる移動支援の取組みが活発化していると基調講演した。任意の謝礼や、アプリを使ったライドシェアで出てきた仲介手数料は、手法としてもっと活用できると考えていいと述べた。

窄口真吾氏は、住民の声に押されて誕生した訪問Dの事例を紹介した。要支援1・2等を対象とした小野市内の病院への通院の付添いで、担い手は有償ボランティア、マイカーを使用している。介護ファミリーサポートセンターと一体となって実施されている。第1層と地区ごとの協議体を通じてニーズを施策につなげたことがポイント。行政と社協の連携・協働関係がしっかりできていることも担い手確保やしきみづくりに寄与している。

梅田寛章氏は、235世帯の自治会が母体の「ほっとらいふ」が、高齢者の困りごとは何でも解決していこうと活動するなかで、移動支援を行っている事例を報告。定時定路線で走るタイプや福祉有償運送も検討したが、個別ニーズに対応する必要性を感じて、ガソリン代のみを受け取るドアツードア送迎を選んだ。どこの地区でも、このような活動を進めていくリーダーが必要と締めくくった。

三星昭宏氏は、富田林市の地域公共交通会議の座長を務めてきた経験から公共交通はもちろん大切だが、これからは、助け合いがなければ住民の移動の問題は解決できないとコメント。「ほっとらいふ」について、富田林市も頑張っているが市を動かしたのは住民の熱意と述べ、自家用有償旅客運送の活用推進と助け合いによる輸送へ期待を寄せた。

川部勝一氏は、地域包括ケアには移動支援が不可欠、30分圏内にある居場所等に通うモデルが示されており送迎無しでは通えない。タクシー乗務員や有償運送の担い手不足から、国交省にも互助による輸送は必要という認識が広がっているのではないかと。だが訪問Dの実施市町村はわずか40余り。75歳以上の人物像はこれからどんどん多様化する。それに応えるサービスが必要。まず移動ニーズは高まっているとの認識が大事。消費税財源など、使える金額も総合事業については増えてくるので活用した方が良く述べた。

河崎民子は、法制度の解釈によって有償にはならない(許可登録不要の形態で実践可能な)各種タイプの整理を行った。また、住民による支え合い・助け合いの移動・外出支援の事例や、全国に広がりつつある社会福祉法人の公益的な取組みによる事例を紹介した。最後に提言「介護予防や健康寿命延伸のために買物や居場所などに出かけることはとても大事。助け合いの仕組み・登録不要の形態で、生きがい・助け合いの移動支援の実践事例を全国あちこちにジャンジャンつくろう！」を満場の拍手とともにまとめた。

アンケートの結果 参加者概数：215名 回答者数：149名

